

指定研究村に於ける必需物資配給実績調査報告（一）

一、山形縣の研究村に於ける農村必需物資配給実績調査報告

目次

自昭和二十一年春—至二十二年春

岸 英 次

一、山形縣研究村に於ける調査報告

二、栃木縣研究村に於ける調査報告

三、福岡縣研究村に於ける座談會記錄

（備考） 農村必需物資配給實態調査に關する件

まへがき……以下の各報告は備考に附録した調査項目を中心として、當所の各縣駐在研究員が調査した成果の中間報告である。本調査に於ては現地の實狀と駐在研究員の個性を十分に尊重して居るので、各篇夫々獨立の調査として資料價値の高いものと思ふ。問題の性質上、全駐在研究員の報告の出揃ふのを待たず、生の中間報告を其儘蒐録して大方の參考に供する次第である。（編集委員）

I 調査對象 研究指定村たる山形縣最上郡某町を採

り、A、B、Cなる夫々山間部、平坦部（町に隣接せるもの）、平坦部（町の中心より離れたるもの）の三部落に於てなし、便宜上代表的階層數戶づゝ選擇して聽取調査を試みた。

II 調査事項 大旨農業綜合研究所の指示に基けるも「配

給計畫（豫定）數量と配給実績數量」の事項は、町村部落に於いて、かゝる計畫乃至豫定といふもの無きたみ、又、配給割當數量と配給実績數量との間にさしたる差なき（殆ど自減り程度）故、之等を略した。

Ⅲ 調査方法 駐在員の個人的理由から、聴取は夫々適當な三名に依頼し、その様式は以下の個表の如くである。なほ部落全戸については之を行はなかつた。

Ⅳ 個表

- イ、地主 三戸 (A¹, A², A³)
- ロ、自作 三戸 (B¹, B², B³)
- ハ、自小 二戸 (C¹, C²)
- ニ、小作 三戸 (D¹, D², D³)
- ホ、日傭人 二戸 (E¹, E²)
- 計 一三戸

個表についての註記

「數量」欄中

- A …… 正式ルートに依る配給を示す。
- B …… 準正式ルートと稱すべき、農業會等の獨自の經濟行爲による配給を示す。
- 一、調査期間 自昭和二二年春至二二年春
- 二、調査結果
- 計 六人

C …… 自由購入(所謂、闇購入)
「品目別對價」欄中

ゲ …… 現金購入を示し。

ブ …… 物交を示す。

以下原表を附記するが、時間的理由から整理充分ならず、様式も又一定せぬのは遺憾である。

一、農家番號 A¹

所有階級 地主兼自作

經營面積 水田(五反)、畑(四反)、大家畜(牛一頭)

家族構成 男(五七) 女(七二)

(二三) (五四)

(一九) (一三)

肥料	品目	數量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	CA	三貫〇〇〇 〇貫〇〇〇	A ⊕ 五〇〇〇〇 二七〇〇〇	二〇貫〇〇〇	二五貫〇〇〇

衣	自		農	種	農
	轉		機		業
料	車		具	苗	藥

縫	布	チ	タ	修	石	電	モ	マ	製	鉄	甘	馬	秋	野	銅	ホ	肥	燐	加	石
		ユ	イ	理	力	力	ー	グ	繩	諸	藷	鈴	大	菜	製	ル	料		灰	
糸	地	ブ	ヤ	品	油	線	丨	ワ	機	苗	子	根	子	劑	ン	灰	酸	里	紫	

C	A	C	A	C	C	B	C	C	A	C	A	C	C	A	B	A	A	A	A	A
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三四	三四	三	一	一	?	?	一	一	一	一	二	一	一	一	二	一	四	六	六	六
束	束	反	反	本	組		臺	丁	本	本	本	本	合	勺	合	袋	貫	貫	貫	貫
ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ			ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ					

一	二	三	一	一			一	一	一	二	一	二	七	四	二	一	二	四	六	六
五	四	五	六	五			四	五	一	一	一	一	五	五	〇	八	三	〇	七	七
〇	〇	〇	〇	〇			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇			〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

				二〇〇					一	一							一		六	六
六	四	一	一	〇					五	五							〇		〇	〇
束	反	組	本	〇					〇	〇							貫		〇	〇
				〇					〇	〇							〇		〇	〇

				三〇〇					一	一								二	一	一
〇	五	一	二	〇					七	七								五	〇	〇
束	反	組	本	〇					〇	〇								貫	〇	〇
				〇					〇	〇								〇	〇	〇

日 用 品	雜 貨	食 料 嗜好 品
-------------	--------	-------------------

ハ ミ ガ キ 粉	辦 當 箱	釜 當	鍋 球	電 油	燈 炭	木 寸	磷 寸	魚 草	煙 草	酒 草	鹽	醬 油	味 噌	古 衣	中 綿	地 袋	作 業 衣
-----------------------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---	--------	--------	--------	--------	--------	-------------

C	C	C	CA	CA	A	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA			C	A	C
---	---	---	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	--	--	---	---	---

一 四 ケ	一 ケ	一 ケ	四 ケ	一 ケ	二 五 依	六 三 依	四 箱	一 〇 三 貫 〇 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇 〇	一 六 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇 〇	一 〇 三 貫 〇 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇 〇			四 足	一 足	一 着
ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ			ゲ	ゲ	ゲ

二 八 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	一 七 〇 〇 〇	一 八 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	六 三 〇 〇 〇	二 九 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	一 六 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇	一 〇 三 貫 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇			一 〇 〇 〇 〇	一 八 五 〇 〇	六 五 〇 〇 〇
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------------	-----------------------	-----------------------	--	--	-----------------------	-----------------------	-----------------------

一 ケ	一 ケ	五 ケ	二 〇 依	三 箱	一 五 貫 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	一 五 貫 〇 〇 〇	一 五 貫 〇 〇 〇	一 七 貫 〇 〇 〇	二 斗	一 貫 〇 〇 〇	三 足	一 着			三 貫 〇 〇 〇	四 足	二 着
--------	--------	--------	-------------	--------	----------------------------	-----------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	--------	-----------------------	--------	--------	--	--	-----------------------	--------	--------

其の他		ハブラシ		醫藥		雑誌		新聞	
A C		A C		A C		A C		A C	
六本	九〇〇	一五五	〇〇〇	一五〇	〇〇〇	三四	〇〇	八〇	〇〇
一袋	一五〇	〇〇	〇〇	二册	二册	五帖	五帖	二部	二部
二〇袋	二〇〇	〇〇	〇〇	二册	二册	五帖	五帖	二部	二部

一、農家番號 A²

所有階級 地主兼自作

經營面積 水田(一五反)、畑(一・五反)、大家畜(馬一頭)

計 八人

家族構成 男(六五) 女(六〇)

(三三二) (三三二)

二、調査期間 自昭和二二年春至昭和二二年春

三、調査結果

品名	數量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	八貫〇〇〇	八八・五六	一八貫〇〇〇	二〇貫〇〇〇
石灰窒素	一九貫六四〇	一九〇・九二	一八貫〇〇〇	二〇貫〇〇〇
過磷酸	一〇貫〇〇〇	六五・七一	二〇貫〇〇〇	三〇貫〇〇〇
加料里	一五〇貫〇〇〇	三三・九〇	五貫〇〇〇	一〇貫〇〇〇
肥料石灰	二〇貫〇〇〇	二〇・〇〇		
砒酸石灰	二袋	二〇・〇〇		

二、調査期間 自昭和二十一年春至昭和二十二年春

三、調査結果

肥料		農種		農機		自轉車		衣料	
品名	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量
硫酸安	二〇貫〇〇〇	石灰壺	一八貫〇〇〇	加里	三貫〇〇〇	過磷酸石灰	一五貫〇〇〇	ホルマリン	〇・三立
野萊種子	一合	秋大根	五合	馬鈴薯	三貫〇〇〇	甘藷苗	一〇〇〇本	平鐵	二
ナ	一	モ	一	動力線	四〇間	開閉器	二枚	硝子	二〇〇〇〇
タ	一	布	一	縫糸	一〇束	衣料	一〇束	衣料	一〇束
CA	一	CA	一	CA	一	CA	一	CA	一
品目別對價	二二・一六〇	一九〇・九二	二五・二〇	八四・二〇	四・五〇	四・五〇	二七・〇〇	二二・〇〇	二五・〇〇
最低所要數量	二〇貫	六貫	一〇貫	二四貫	〇・五立	四合	一合	一〇束	二反
希望數量	三〇貫	一二貫	二〇貫	三六貫	一立	四合	一合	一五束	三反

三三三

(九)

(四)

計 九人

二、調査期間 自昭和二十一年春至昭和二十二年春
三、調査結果

肥		農		種			
料		藥		苗			
品	目	數	量	品	目別對價	最低所要數量	希望數量
硫	安	CA	一一〇〇〇〇	一三八・〇〇	三二貫〇〇〇	六〇貫〇〇〇	六〇貫〇〇〇
石	窒	A	二〇貫〇〇〇	一七四・八〇	三六貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇
過	燐	A	七貫〇〇〇	七〇・〇〇	四〇貫〇〇〇	八〇貫〇〇〇	八〇貫〇〇〇
加	里	A	一一貫〇〇〇	九九・六〇	二五貫〇〇〇	四〇貫〇〇〇	四〇貫〇〇〇
特	殊	A	二〇貫〇〇〇	四五・二〇	三〇貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇
魚	粉	A	五〇〇〇〇	三八・〇〇	二五貫〇〇〇	三五貫〇〇〇	三五貫〇〇〇
煙	油		五〇〇瓦				
ホ	ル						
ウ	ス						
砒	酸					一〇〇匁	二〇〇匁
砒	石					一六〇匁	二五〇匁
硫	酸					一〇〇匁	二〇〇匁
野	菜	C	四袋	二四〇〇	一五袋	一九袋	一九袋
秋	大	B	二袋	一五〇〇	三五袋	五袋	五袋
馬	鈴	A	三袋	一五〇〇	三五袋	一袋	一袋

其 の 他	燃 料	日 用 品	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨	雜 貨		
馬 飼 料	薪 炭	木 球	電 球	ノ ト	雜 誌	新 開	釘 箱	辨 箱	釜 箱	銅 箱	燐 寸	濁 寸	副 寸	鮮 食	煙 魚	酒 草	鹽 A	醬 B	醬 C		
C°	ACCA					C	C	C	C	A	C	C	C	CB	A	A	BA	CA	CA		
(糖)																					
一・五 俵	一三 俵	一三 ヶ	一三 ヶ	一三 ヶ	一三 ヶ	二〇〇 匁	四ヶ	二ヶ	一ヶ	四ヶ	八斗			四六 貫〇〇〇	七三〇 本	一・二 升	四三貫 〇〇〇	三貫〇〇 〇〇	一斗五 升六合		
ゲ	ゲ	ゲ		B	A	ゲ	ブ	ゲ	ゲ		米	ゲ	ゲ				ゲ	ゲ			
四五〇〇〇	八五〇〇〇	二五〇〇〇	五〇六〇三〇	九〇〇〇〇	一一・五〇〇	七〇〇〇〇	米五升	二一五〇〇	一四〇〇〇	二四・八〇	七斗			一四〇〇〇	七九五〇〇	七八〇〇〇	七三〇〇〇	一〇八五〇〇	五二五〇〇	二二五〇〇	二六〇〇〇
四五〇圓〇〇	六俵	二ヶ		八〇〇〇〇		二〇〇匁		一ヶ	一ヶ	四ヶ				一〇貫〇〇〇	七五〇圓〇〇	五升	一〇貫〇〇〇				
	七俵	三ヶ		一〇〇〇〇〇		二〇〇匁		三ヶ	一ヶ	四ヶ				一六貫〇〇〇	七五〇圓〇〇	一斗	一四貫〇〇〇				

三二七

(米價) 二五〇〇〇

一、農家番號 B²

所有階級 自作

經營面積 水田(二三反)、畑(六反)、大家畜(馬一頭)

家族構成 男(六四) 女(六五)

(一四) (一一)
(五)

計 七人

二、調査期間 自昭和二一年春至二二年春

三、調査結果

肥料	農藥劑	種苗	農機具	品目	數	量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	加過	銅製劑	馬鈴薯種子	硫酸安	A	二五貫〇〇〇	二七・七〇	三五貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇
石灰燐	加里	野菜種子	秋蒔大根	石灰燐	A	二四貫〇〇〇	二五・四〇	一二貫〇〇〇	一八貫〇〇〇
	ホルマリン	五合	五勺	加里	A	三二貫〇〇〇	一七・五三六	二四貫〇〇〇	二四貫〇〇〇
	銅製劑	二合	五勺	加里	A	一貫四〇〇〇	一一・七六	三〇貫〇〇〇	四〇貫〇〇〇
	馬鈴薯種子	四貫〇〇〇	五勺	加里	A	〇・五立	一・五〇	〇・八立	一立
	甘藷苗	一・二〇〇	二〇〇本	加里	A	一八・〇〇	一八・〇〇	四袋	五袋
	平鉢	二〇〇本	二〇〇本	加里	A	一四・〇〇	一四・〇〇	一合	一・五合
	ナタ	一丁	一丁	加里	A	七・〇〇	七・〇〇	一合	一・五合
	カサ	一丁	一丁	加里	A	四・〇〇	四・〇〇	一合	一・五合
	マサ	一丁	一丁	加里	A	一・八〇	一・八〇	一合	一・五合
	リ	一丁	一丁	加里	A	一・〇〇	一・〇〇	一合	一・五合

雜貨				食料嗜好品				衣料											
電球	燈油	木炭	燐寸	魚草	煙草	酒	鹽	醬油	味噌	古靴	古入	中綿	地下業	作業	縫糸	布地	石油	動力線	
A	A	A	A	C	A	C	A	A	A	C			A	A	C	A	C	A	
一	九・五〇	一五〇・〇〇	二八〇・〇〇	八三〇〇〇〇	一一〇〇〇〇	一一〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	三足			四足	三着	二束	四束	一反	四反	三〇立
			ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ					ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ブ	
			一、五〇〇〇	一、八〇〇〇	一、一〇〇〇	一、四〇〇〇	一、八〇〇〇	九七・二〇	一、八〇〇〇				三〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	六・八〇〇	米一斗	二〇五・〇〇	一九五・〇〇
				三〇〇〇本			一七貫〇〇〇			三足	二反		二貫〇〇	五足	四着	八束	五反	五〇立	
二	七俵	二箱	二貫〇〇〇	四〇〇〇本			二〇貫〇〇〇	二・五升		四足	三反		五貫〇〇	六束	五着	一〇束	六反	六〇立	

三二九

日用品	鍋	辨當	新藥	其他
箱	箱	箱	箱	箱
CA	CA	CA	CA	A
一ケ	一ケ	一ケ	一ケ	一ケ
二ケ	二ケ	二ケ	二ケ	二ケ
三ケ	三ケ	三ケ	三ケ	三ケ
四ケ	四ケ	四ケ	四ケ	四ケ
五ケ	五ケ	五ケ	五ケ	五ケ
六ケ	六ケ	六ケ	六ケ	六ケ
七ケ	七ケ	七ケ	七ケ	七ケ
八ケ	八ケ	八ケ	八ケ	八ケ
九ケ	九ケ	九ケ	九ケ	九ケ
一〇ケ	一〇ケ	一〇ケ	一〇ケ	一〇ケ
一一ケ	一一ケ	一一ケ	一一ケ	一一ケ
一二ケ	一二ケ	一二ケ	一二ケ	一二ケ

一、農家番號 B³

所有階級 自作

經營面積 水田(一八反)、畑(三・五反)、大家畜(馬一頭)

(頭)

家族構成 男(四八) 女(四四)

(三四) (六二)

二、調査期間 自昭和二二年春至昭和二二年春
三、調査結果

計 九人

品名	數量	單位	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	一六貫	〇〇〇	一六二・五六	二〇貫	二五貫
室素	一八貫	〇〇〇	一九〇・九二	一五貫	二〇貫
加里	一〇貫	〇〇〇	八〇・八〇	一六貫	二〇貫
特殊化成	一〇貫	〇〇〇	二二・六〇		
石灰粉末	一〇貫	〇〇〇	二八・〇〇		
ホルマリン					
ウスブルン					

雜貨

食料嗜好品

衣料 自轉車

鍋 燐 副 鮮 煙 酒 鹽 醬 味 冬 古 地 作 縫 布 チ タ 脱
寸 食 魚 草 油 噌 ャ ツ 衣 袋 衣 糸 地 プ ュ イ 鞆
C A C^B C B C A A C A A C C C A C A C A C A C C

一ケ	四ケ	一〇貫〇〇〇	一五貫〇〇〇	三、二八〇〇本	一八〇〇	六升	〇〇貫〇〇〇	二貫〇〇〇	五升	四升	一三足	一三足	一三足	一三足	一三足	一三足	一本	一	
ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	
一 二〇〇〇〇	六 八〇〇〇〇	一 〇〇〇〇〇	一 〇〇〇〇〇	二 七二〇〇〇	一 八〇〇〇〇	八 五八〇〇〇	一 五八〇〇〇	一 五八〇〇〇	八 五〇〇〇〇	二 〇〇〇〇〇	一 三〇〇〇〇	三 五〇〇〇〇	三 五〇〇〇〇	一 〇〇〇〇〇	二 〇〇〇〇〇	二 〇〇〇〇〇	一 〇〇〇〇〇	三 五〇〇〇〇	一 〇〇〇〇〇

三ケ

五〇〇〇本
三六升
三〇貫〇〇〇
三〇升
六〇〇〇〇

(九公配給で
餘りある)

六、〇〇〇本
四〇〇升
四〇貫〇〇〇
三二升
一、五〇〇〇〇
四
一、〇〇〇〇〇

其 の 他	燃 料	電 球	木 炭	燈 油	馬 飼 料	雜 誌	新 聞	釘 箱	日 用品	釜 當 箱
C	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C
一米 依糖	一 ケ	五 册	三 册	一 ケ	一 ケ	一 ケ	一 ケ	五 〇〇 夕	二 ケ	二 ケ
四 三〇 〇〇	五 〇〇 〇	四 八〇 〇	一 〇五 〇	一 ケ	二 四〇 〇	一 〇〇 〇	一 〇〇 〇	一 〇〇 〇	六 八〇 〇	一 六五 〇〇
二 依	二	七	一	一	一	一	一	一	三	一 ケ
五 依	三	〇	一	一	一	一	一	二 貫〇〇 〇	四	四

(高價につき
求め兼ねる)

一、農家番號 C°

所有階級 自小作

經營面積 水田(二八・二反)、畑(三・五反)、大家畜

(一頭)

家族構成 男(四五) 女(四〇)

(三八) (三四)

(二五) (二〇)

(一九) (二六)

(二七) (二二)

(二三) (八)

(六)

計 一三人

二、調査期間 自昭和二年春至昭和二年春

三、調査結果

肥料		農業藥劑		種苗		農機具		衣料	
品目	數量	品目別對價	最低所要數量	希望數量	品目	數量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	五〇貫〇〇〇	五五四・〇〇	七〇貫〇〇〇	一〇〇貫〇〇〇	石灰室素	二〇貫〇〇〇	二一二・〇〇	四〇貫〇〇〇	五〇貫〇〇〇
加里	八貫〇〇〇	一七二・〇〇	一五貫〇〇〇	二〇貫〇〇〇	燐酸	四〇貫〇〇〇	二一九・二〇	七〇貫〇〇〇	一〇〇貫〇〇〇
ホルマリオン	〇・八立	二・四〇	一立	一・五立	銅製劑	三袋	二七・〇〇	五袋	一・五立
野菜種子	二合	六〇〇・〇〇	四合	五合	秋大根	一合	三一三・五〇	一六勺	二合
馬鈴薯種子	四貫〇〇〇	三六〇・〇〇	自家用	二合	甘藷苗	三一五〇〇本	六〇〇・〇〇	四〇〇本	五〇〇本
鐵	三丁	一二三・五〇	三丁	四丁	鐵	二丁	六〇〇・〇〇	三丁	四丁
三本	一丁	一八〇・〇〇	二丁	五丁	三本	一丁	一〇〇・〇〇	二丁	二丁
ホ	一丁	一〇〇・〇〇	三、〇〇		モ	一丁	一〇〇・〇〇		
修理用品	一丁	六〇〇・〇〇			布	一反	二〇〇・〇〇		三反
地	一反	六〇〇・〇〇			地	一反	二〇〇・〇〇		

衣 料			自 轉 車				農 機 具					種 苗								
縫	布	荷馬車修理地	チエー	タイヤ	自轉車油	修理用品	電球	モト	開整	マサカリ	ホサ	ナ	録	録	甘藷苗	馬鈴薯種子	秋蒔大根	野菜種子		
CA	CA	B			C	B	CA		B	B			CA	C	CA		CA	CBA		
?	?	?			?		二ケ	一ケ	一丁	一丁			二丁	二丁	二五〇〇本		四袋	二四六袋		
ゲ	ゲ				ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ		
八〇〇〇	一六〇〇	四七〇〇			四八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二四〇〇	一〇〇〇	一五〇〇			六三〇〇	三八〇〇	一〇五〇		四八〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇
					四〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇			〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇		〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇
					四〇〇〇	二本	二本	三ヶ		一丁	一丁		三丁	二丁	七〇〇本					
					二本	二本	四ヶ			一丁	三丁		二丁	七〇〇本	自家保有					

日用品	雜貨	食料嗜好品														
辨當箱	銅	薪	電	木	燐	魚	魚	廬	酒	鹽	醬	味	古	中	地	作
		球	炭	寸	油	草					油	噌	靴	衣	綿	袋
C	CA	CA	CA	CA	CA	CB	A	A	CA	CA	CA	A	C		A	CA
ニケ	一ニケ	三ケ	一ニケ	四ケ	一四合	一四合	三四貫	五升	五升	五升	二四升	自家製品	一足	二着	四足	二着
ブ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ
100.00	30.50	5.00	1.50	4.50	1.60	1.30	3.50	6.00	4.00	8.00	2.80	2.80	8.00	9.50	1.20	1.60
米二升	米二升	米三升	米四升	米四升	米四升	米四升	米四升	米四升	米三斗	米三斗	米三斗	米三斗	米三斗	米三斗	米三斗	米三斗
	一ケ	三ケ	三儀	三ケ			二貫	六五〇	二貫	三斗	二足			三足		
	二ケ	四ケ			二〇貫			六五〇		四斗	三足			五足		

一、農家番號 D²

所有階級 小作

經營面積 水田(二三・五反)、畑(二反)、大家畜(一頭)

家族構成 男(四六) 女(四二)

其他	手	七	醫	新	雜	ノ
桶	輪	品	藥	誌	ト	
C	C	CA				
一ケ	一ケ	二ケ	家の光	その他		
三〇・〇〇	米五升	(二五〇・〇〇)	一四・〇〇	五〇・〇〇	八〇・〇〇	六〇・〇〇
一ケ			五〇・〇〇	二〇〇・〇〇		

(一八) (二二)

(六) (八)

計 八人

二、調査期間 自昭和二二年春至昭和二三年春

三、調査結果

肥料	品目	数量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
硫酸安	硫酸安	三〇貫〇〇〇	三三二・四〇	一六貫〇〇〇	二〇貫〇〇〇
石灰窒素	石灰窒素	二〇貫〇〇〇	二二・二〇〇	一八貫〇〇〇	一八貫〇〇〇
加里	加里	二貫八〇〇	二二・九六	一〇貫〇〇〇	二〇貫〇〇〇
磷酸	磷酸	三〇貫〇〇〇	一六四・四〇	五〇貫〇〇〇	六〇貫〇〇〇
農業藥劑	ホルマリン	〇・五立	一・五〇	〇・八立	一立

種		農		自		衣		種											
苗		機		轉		料		苗											
野	秋	馬鈴薯	甘藷	鐵	製	マ	モ	動	石	修理	タ	チ	布	縫	作	地	中	古	
菜	大	薯	諸	繩	繩	ン	ン	力	油	用	イ	ユ	地	糸	業	下	入		
種	根	子	苗	機	機	ダ	ダ	線	品	部	ヤ	ブ	地	糸	衣	袋	綿	衣	
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
CA	CA	A	A	A	A	A	A	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	C	C
一合二勺	一合	三貫〇〇〇	一五〇本	一丁	一ケ	一ケ	一ケ	一五〇米	一八立	二四立	一八立	一八立	一八反	一〇三東	一〇三東	二一足	二一足	一反	一反
五勺	一合	〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二合二勺	二合	二七〇〇	一八〇〇	四〇〇	八四二〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	一二〇〇〇	一五六斗	一五五升	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一〇五〇	一〇五〇	七二〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇
二合	二合	〇〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五勺	一合	五貫〇〇〇	三〇〇本	一丁				三五立					五反	一〇束	三觔	三足	二反		
二合五勺	一合五勺	〇〇〇〇	五〇〇本	二丁				四〇立					七反	一五束	五觔	四足	三反		

食料嗜好品

衣料

味	手	古	中	地	作	縫	布	チ	タ	自	脱	除	ナ	修	石	モ	動	製	録	
			入	下	業			ユ	イ	轉	穀	草		理		力	炭			
嗜好	拭	衣	綿	袋	衣	糸	地	ブ	ヤ	車	機	機	タ	品	油	線	具			
	C	A	C	C	A	C	A	C	A				C	C	C				C	C

三本	二本	〇點	一反	二足	一疋	一疋	三束	二束	三反	四反			一臺	二臺	一丁				二丁		
ゲ	ゲ	ブ	米	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ			ゲ	ゲ	ゲ				ブ	ゲ	ゲ
		一〇〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇〇	三六〇〇〇〇〇〇	五八〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	三一〇〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇			二〇〇〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇	五五〇〇〇〇〇〇				三〇〇〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇〇〇〇

三四五

五本	二反	三足	三疋	一〇束	七反			一臺	二臺	一丁									三	
七本	四反	五足	四疋	一五束	一〇反								三臺	二丁						四

其 の 他	其 の 他	醫 藥 品	燃 料	雜 貨
-------------	-------------	-------------	--------	--------

購 入 費	便 ノ 誌 ト	雜 新 聞	薪 木 炭	石 油	辨 當	電 箱	釜 球	鍋 ク	口 寸	燐 魚	鮮 草	煙 酒	鹽 油	醬 油
-------------	------------------	-------------	-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

C ゲ	C C	C				C	C	C	C	A	A	A	A	A	A
--------	--------	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

一、〇〇〇〇〇〇	三册	四册	三五袋			二ケ	一ケ	〇三本	四箱	六貫五〇〇	五貫五〇〇	五、四〇〇	六升	八貫〇〇〇	二四升
〇〇	ゲ	ゲ	ゲ			ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ	ゲ

その他(木炭)	主とし(米)	二四〇〇〇	二〇〇〇〇	二六八〇〇			五〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	二八〇〇〇	三〇〇〇〇	一三〇〇〇	五四〇〇〇	一八〇〇〇	六五〇〇〇	一二七二〇
---------	--------	-------	-------	-------	--	--	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

																三〇升
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----

																三五升
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----

一、農家番號 E'

所有階級 日傭人

經營面積 水田(三・八反)、畑(二畝)、大家畜(ナシ)

家族構成 男(三七) 女(三五)

(九)

計 四人

二、調査期間 自昭和二一年春至昭和二二年春

三、調査結果

(四)

品名	數	量	品目別對價	最低所要數量	希望數量
肥料	A	五貫〇〇〇	五九・〇〇	一〇貫〇〇〇	一五貫〇〇〇
石灰	A	三貫〇〇〇	三一・八〇	六貫〇〇〇	一二貫〇〇〇
加里素	A	五〇〇	四・二〇	五貫〇〇〇	一〇貫〇〇〇
磷酸	A	五貫三〇〇	二九・四〇	一二貫〇〇〇	一五貫〇〇〇
ホルマリン	A	〇・一立	三〇・〇〇	〇・四立	〇・五立
野菜種子	CA	一合	四〇・〇〇	一合	一合五勺
馬鈴薯	C	一貫〇〇〇	三五・〇〇	一貫〇〇〇	二貫〇〇〇
甘藷	CA	三〇〇	一〇・三六	八〇	一〇〇
鐵	C	一丁	四〇・〇〇	一丁	一丁
農具	C	一丁	二〇・〇〇	一丁	一丁
修理用品	C	一丁	四〇・〇〇	一丁	一丁
本銀	C	一丁	四〇・〇〇	一丁	一丁

辨當箱	ハミガキ	ハブラシ	ハブ	半紙	醫藥品
C	C	C	C	C	C
1	4袋	3本	1部	2帖	10貼
ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ
4000	3500	7000	2000	2500	2500
5袋	3本	3部	3帖		

一、農家番號 E²

所有階級 日傭人

經營面積 水田(ナシ)、畑(五畝)、大家畜(ナシ)

家族構成 男(五〇) 女(四三)

(一九) (二二)

計 六人

二、調査期間 自昭和二十一年至昭和二十二年

三、調査結果

肥	農	種	農	農
料	藥	苗	具	機
硫安	石灰粉末	ナシ	野菜種子	秋大根
C	C	C	C	C
1貫000	2貫000		1合	0.5合
ゲ	ゲ		ゲ	ゲ
5000	2000		3000	1800
最低所要數量			1合	4貫000
希望數量			2合	6貫000

うと思はれる。特に後者については、自身の擴大生産の規模に思ひ及ばざる點があらう。

○三者を比較しみるに夫々品別に可なりの差異がみられ、一般的に言つて肥料（特に窒素、燐酸）、農機具、自轉車（運搬具）、衣料、食料嗜好品（特に鹽、醬油、魚……味噌は自家生産多い）等に缺乏の度の大なることを示す。

種苗、食料、嗜好品（酒、煙草）、燃料、雜貨日用品等は何とか必要量を充してゐる（勿論嚴密には尙可なり不足してゐるが）ものといへよう。（種苗中馬鈴薯は比較的高冷地の關係上自給し、燃料は山付の關係上得易い。）

兎に角全體としてみれば、取得數量は相當貧弱なものであることは申す迄もない。

○なほ之を階層別にみれば、地主層は肥料、衣料、食料（比較的他に比し缺乏少い）。自作、自小、小作層は肥料、農機具、衣料、食料嗜好品。

日傭人は食料嗜好品（米も味噌も此の層に於いては

特に缺乏されてゐる）。衣料、肥料（比較的要求少い）勿論、生産資材は經營規模と照應し、例へば個表、 $B_0 \cdot C_0 \cdot D_1$ 等に於いて明かに認められる。家族員數と消費資材とは密接に關係あらうが餘り明瞭には示されてゐない。例へば C_0 の如き家族數多いものが衣料について最も詳しい報告を出してゐるのは、かゝる點への關心の強いことを示してゐる。）

○なほ取得數量を支拂つた代金額の點からみれば次頁の表の如くである。

記帳農家でない關係より寧ろ聽取洩れが相當多いと考へられるが、いづれも可なり大なる購入金額を示してゐる。彼等の収入（ 圓 ）に比して決して輕い數量ではない。（大體聽取に更に二―五千圓位加へた所が正しいのではなからうか。）

二、取得方法別數量

取得數量は最低必要數量及希望數量に比すれば可なり著しい懸隔あるものであるが、なほ相當數量取得し得たものといへる。その取得方法別に之をみれば

○正式ルート（個表ではA）に依るものは肥料に於いては殆ど大部分、その他自轉車を除いて殆ど凡ての項目にわたつてゐる。

準正式ルート（個表ではB）は殆ど農機具、食料嗜好品中、一―二のものに限られ云ふに足りぬ。

自由購入品（所謂、個表C）は正式ルートとほぼ匹敵し、肥料を除いた殆ど全項目にわたつてみられる。階層別にみてもこのことは大概大同小異である。

○次に、準正式ルートは論外として他の二つを量的に比較するに、専らこゝで價格（出費）の點からみれば、

地主 A¹ 約一六、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一〇、〇〇〇圓

（兼自作）A² 約九、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約八、〇〇〇圓

A³ 約二一、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一六、〇〇〇圓

自作 B¹ 約二一、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一六、〇〇〇圓

B² 約一〇、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約八、〇〇〇圓

B³ 約二〇、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一三、〇〇〇圓

自小作 C¹ 約二三、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一三、〇〇〇圓

C² 約一四、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一〇、〇〇〇圓

小作 D¹ 約一三、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約八、〇〇〇圓

D² 約一六、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約四、〇〇〇圓

D³ 約一四、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一、〇〇〇圓

日傭人 E¹ 約三、〇〇〇圓中C

（自由購入に依るもの）約一、二〇〇圓

E 約二二、〇〇〇圓中C

(自由購入に依るもの) 約一〇、〇〇〇圓
殆ど購入代金中七〇—八〇%は自由購入(圍)代金となつてゐる。

階層的に差異は明かではないが、日傭人は比較的自由購入の部分が多くなるかにみられる。

○品目別にみれば、農機具、衣料、自轉車、食料嗜好品中の特に鹽、醬油、魚類、煙草等に自由購入的の出費著しく、日傭人に於ては食料嗜好品目中、味噌、米の如きがかゝる對象となつて現はれてくる。

○なほ物交も相當にみられこの個表中に於いても殆ど各農家に散見せられるところであり(大なるは一九斗—A、一七斗—B)この點で聴取に洩れし所も相當あるかに推察せらる(村の人々の言葉では、一農家平均三俵(一二斗)位物交として用ゐられてゐるのではないかといはれる)。なほ大農具、自轉車(部品)、鹽、衣料品に於いて特に盛んである。

○要するに〔一〕に於いてみた如く、取得數量は必要數量、

希望數量に比しなほ相當に不足であるけれども、購入代金は相當額に上つておつた。こゝで取得方法別に見た場合、品目別には正式ルートに依るものと、自由購入(圍)に依るものと、ほゞ相半ばする如くであるが、代金額の點に於いては自由購入(圍)に依るものが壓倒的に大きく、このことが前記取得數量の過少と支拂代金の寧ろ高きことの年を説明するものといへる。

先に觸れなかつたが、取得別品目の絶對數量は之を平均してみれば、正式ルートに依るものが、自由購入(圍)に依るものより低いことは當然ながら、代金額に示された程の大差のないことは勿論である。
三、取得別品目對價

○詳しくはこゝでは觸れないが、自由購入(圍)に依るものが最も高いことは云ふまでもない。例外としては山村の關係上、燃料(炭)の場合圍値が低いといふ點がみられる。

四、以上の如く、兎に角農民は必死になつて自己農家

經濟の縮少再生産に抗してゐるといへる。必需物資に現在の彼等にとつて相當の大金を投じてゐることはこのことを物語る。贅澤品に廻す餘裕などは殆ど認められないであらう。又この縮少再生産阻止の努力は相當な危機に面してゐるといへる。取得數量の過少な割合にその對價の大なることである。物的にみて約六〇%位が所謂闇で、金額では殆ど七〇―八〇%以上がそれらに充當される。この状態を最低必要數量、更に希望數量迄高めることは、單に物的に供給をより豊富にすることと共に、更に價値の點でその負擔を軽くすること、收支のバランスを考慮してやることなしには果されぬ。この地方の農村インフレの現状はかゝるものである。

生産資料では先づ肥料が、又特に生活資材に對する出費は甚しいが、こゝでは衣料全般、食料嗜好品中、鹽、魚、味噌、醬油が當面の最も重要な對象ではなからうか。

(本所山形縣駐在研究員)

二、栃木縣の研究村に於ける必需

物資補給の實態

福田 孫光

一、調査方法

C部落の全戸五四戸(内非農家四戸)につき、本人の希望により聴取法か本人の直接記入法かによつて調査し、別に他の五部落につき、調査に理解ある農家を厳選し、調査參考とした(八〇戸)。

二、調査對象

(1) C部落の概況

(1) 耕地(昭和二十二年春實測面積による)

水田	三町一六〇二	計	二四町五八二二
畑	二一町四二〇〇		
合計	三反 三五	平〇一	一・平二〇
	以下 三反	反一五町	三町三〇町
地主	一	一	一
自作	三五	一一	五二三
自作	七	四	一
自作	七	七	一
小作	七	七	一

(1) 購入肥料

(1) 遅配

昭和十九年

四月三日——昭一八、秋冬作分

九月九日——昭一九、春夏作分

昭一九、秋冬作分は缺配

昭和二十年

一〇月一八日——春夏作分

二月二日——同右

昭和二十一年

三月二八日……麥追肥

四月二日——秋冬作分

四月二五日……大廬用

五月一七日——秋冬作分

六月一日——秋冬作分

一〇月九日——春夏作分

一〇月二六日——同右

昭和二十二年

一月一〇日——秋冬作分

四月八日——同右

六月六日——春夏作分

六月一三日——同右

計、五〇 二二 六一五 七 一

全村 三二〇 一七七 四三 六七 二七 五 一

(四) 人口

大人一八〇人 小人 一五二人 計三三二人

内山林勞務者五八人 外に非農家二一人

(六) 部落

乳牛一〇 役牛九 馬八 飼羊二九 山羊一一 鶏九〇

兔一二三

Cの農業規模は小規模たるを免れず、植林業、山林勞務者、炭焼、酪農等の兼業を以て大部分を占めて居る。

併し各作物の供出量は、概ね村の首位にあり、牛乳供出量も村の五〇%以上を占めつゝある。

(2) 参考農家

地主三、自作四八、自小作二五、小作四。規模別には

三反以下六戸、三一五反一九戸、五一町三二戸、一町

一町五反一八戸、一・五—一町は四戸、二町以上一戸。

家族數六二六人、内山林勞務者六〇人、即ち村内の中堅

農家が多い傾向がある。

三、調査結果

實線を附せるものは何れも遅配を示し、點線は僅かの差で使用に間に合はぬ遅配を示す。現在に至る迄何れも半年間の遅配で、前期用の肥料を充當施用して來て居り、施肥計畫も殆んど立ち得ない状態であつた。昭和二十一年大麻用になつて漸く適期に近く配給される様になつたが、これさへも僅か半月にて間に合はず、今春や、適期に近づいたが、要するに現在なほ遅配を根絶するに至らぬ。

(四) 計畫と實態

試みに配給肥料の實態をうかがはん爲めに筆者の經營簿より摘録して見る。(反當施肥量)

昭和二十一年	水稻			麥			陸稻			麥		
	K	P	N	K	P	N	K	P	N	K	P	N
石灰 三、〇〇〇 匁	ナシ	ナシ	一、五〇〇 匁	ナシ	三三匁	ナシ	四〇〇 匁	八〇匁	一〇〇 匁	ナシ	二五〇 匁	三〇〇 匁
	陸稻			麥			麥			麥		
	K	P	N	K	P	N	K	P	N	K	P	N
	ナシ	ナシ	三四匁	ナシ	ナシ	三四匁	ナシ	ナシ	二五匁	ナシ	ナシ	三四匁

昭和二十二年	水稻			陸稻			馬鈴薯			同種上			甘蔗			桑			
	K	P	N	K	P	N	K	P	N	K	P	N	K	P	N	K	P	N	
	四〇〇	二〇〇	三〇〇	ナシ	七〇〇	一、九〇〇	一、四〇〇	二、〇〇〇	四、八〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五、一〇〇	一〇〇	ナシ	ナシ	一、三〇〇 匁

昭和二十二年春夏作は、昨秋の遅配分を以て、戦後始めてや、計畫的な施肥を實施し得た。次に只一回の貧弱なる資料乍ら、配給計畫と實際配給量との比較を試みやう。

昭、二一、秋冬作物用(C部落計)

計	實際			一月一〇日配給			四月八日配給		
	計	計	計	計	計	計	計	計	計
加里	五三三貫五	三六三貫四	七九五貫七	一	一	一	一	一	一
過燐酸	八一貫五	一一一貫九	一一一貫九	二二五貫五	三三三貫〇	三三三貫〇	三三三貫〇	三三三貫〇	三三三貫〇
石灰N	二六一貫三	(一六〇貫)	三五〇貫八	一九〇貫八	二六一貫三	二六一貫三	二六一貫三	二六一貫三	二六一貫三
硫酸	一六〇貫	(一六〇貫)	一六〇貫	一六〇貫	一六〇貫	一六〇貫	一六〇貫	一六〇貫	一六〇貫

計畫

計畫一〇〇に對し

硫安 二四四貫

石灰N 二〇八貫

硫安換 (二二四)

三六八貫 九五・三%

(四二貫超は昭二二年分)

過燐酸

加里

二九一貫 一〇〇%

一三一貫 八五%

即ち過燐酸の前渡分(とは云へ適期である)四二貫を超過させた一〇〇%の他は何れも不足を見て居るのみならず、表示の如き遅配振りである。要するに足りない乍らも量に於いては、やゝ計畫的に施用出来るが遅配は見逃し得ない。

(イ) 配給外年間取得量及對價(昭二、六、昭二、二、五)

配給外取得量は、C部落にあつては僅かに、粕五貫で、他部落八〇戸中十三戸八種目あり、數量及對價(貫當)は次表の如くである。

肥料名

量

單

價

硫安

二戸

一五貫

一〇〇圓又は炭四貫八〇〇匁

智利硝石

一戸

三貫 馬鈴薯二貫三〇〇

油粕

二戸

三〇貫 五〇圓一〇〇圓

粕	三戸	一五貫	一〇〇圓一五〇圓
鶏糞	一戸	三〇貫	四〇圓
海草	七戸	三七〇貫	九一二圓五〇
燐製肥料	一戸	二八貫	木炭六〇〇匁
石灰	二戸	一一八貫	一〇〇圓又は木炭四貫四〇〇匁

馬鈴薯及木炭による物交五四貫を除く五六三貫は、何れも現金買。總量六一四貫は、全村の昭和二一秋冬及昭和二三春夏配給肥料七〇一四貫に比し八・八に當る。全村農家を調査すれば、この%は幾分高まるであらうが、肥料成分より考へれば、實質的に左程重視する程のものであるまい。

(二) 最低所要數量及希望數量

生産の現状維持に必要な數量及現在の生産を可能限度に擴張するに要する數量は、土質及耕地の立地條件によつて異なること甚しい。山村なる當研究村に於ては日照の差甚しき爲め、想像以上の差が表れて居る。その範圍は概ね次の様である。(参考農家を含め二〇戸の農家につき別途嚴密なる調査結果)(單位反當貫)

	一 硫 安		過燐酸石灰		硫酸加里	
	最低	希望	最低	希望	最低	希望
水 稻	四一五	六一八	三二五	七一〇	三二四	五二七
陸 稻	三二四	五二七	二二五	六一九	二二三	四一五
甘 藷	一一二	三二四	二二三	四一六	三二四	七一九
馬鈴薯	二二三	四一五	三二四	五二七	三二四	七一九
大 麥	四一五	七一〇	七一九	三二五	三二四	五二七
小 麥	三二四	六一八	六一八	二二三	三二四	五二七
大 麻	一一二	三二四	二二三	四一六	三二四	六一八

大 麻 四一五 六一九
 最低 希望
 油 粕

これを昭二二年春の實施肥量に比較すると、

	硫 安		過燐酸		加 里	
	最低	希望	最低	希望	最低	希望
水 稻	七〇%	四五%	五八%	二七%	一一%	七%
陸 稻	三八	二二	三三	一〇	〇	〇
馬鈴薯	九二	五一	五四	三一	四二	一八
甘 藷	五三	二三	二〇	一〇	二八	一一
大 麥	三〇	一六	〇	〇	〇	〇
小 麥	三九	二〇	〇	〇	〇	〇

（昭二一年秋）
 肥比
 〇（同右）

これを要約すれば、その不足%は次の様である。

（各作物でウエイトが異なるので、單純算術平均は妥當ではないが、大勢はつかみ得ると思ふ。）

	最低比	最高比
硫安	八一七〇	平均四六
過石	四二一〇〇	七二
加里	五八一〇〇	八七
平均	四九一	八四
平均	七三一	一〇〇
平均	八二一	一〇〇
平均	九四	

大 麻 作 について は 系 數 的 に 掲 げ な かつ た が、 有 機 質 肥 料 不 可 缺 の 同 作 物 は、 殆 ど 零 に 等 し い 補 給 振 り で あ る。 之 を 要 す る に、 現 在 の 肥 料 補 給 状 態 は 配 給 外 を 含 む と も、 生 産 現 状 維 持 の 爲 め に は、 少 く も 倍 量 の 増 配 を 必 と し、 希 望 數 量 に 對 し て は 今 更 言 ふ を 要 し な い。

（ 困 ） 肥 料 不 足 に よ る 減 收 率

この項目の調査結果は、聴取法によらざる自記票の中に「減收率二〇%」なるものを可成り多く散見するので、明かに「減收なし」の記票違ひと判定し、算術平均法を用ひず大量観察によつて次の表示をなす。（減收部分%表示）

水 稻	二〇—四〇	小 麥	二五—六〇
陸 稻	二〇—五〇	馬鈴薯	一〇—三〇
大 麥	二五—七〇	甘 藷	一〇—二〇

里羊	〇一〇	大豆	〇一〇
種	〇二〇	小豆	〇一五
粟	〇二〇	大麻	四〇一七〇
蕎麥	〇一〇		

最も致命的な打撃を受けて居るものは大麻である。大麻は前記の肥料事情よりして、半作にも及ばぬ現狀にある。次は麥類である。冬季凍上の甚しい當村に於ては、肥料不足の影響を深刻に受け、筆者の經營經驗によると砂土壤土は先づ二〇—三〇%減に喰ひ止め得るも、埴土にあつては往々收穫皆無（著例昭一九作付麥に多し）も稀ならず、埴土耕地にては肥料充分なる場合に比し、五〇%減以上の良作は先づ至難なる現狀にある。次は日照全からざる耕地に於ける甘藷作の打撃も大きい。従つてF部落の全般は先づ三〇%減に近いのは事實である。

(2) 購入飼料

第一次大戦までは、村内に多くの採草地を有し、馬の飼育による自給肥料農耕が營まれて居たが、金肥の入村と木材價格の昂騰による造林熱の旺盛化につれ採草地は狭少化し、馬の頭數も亦減じ金肥農耕の傾向が見られた。

昭和十年頃乳牛が導入され始め、次いで綿羊山羊も飼育されるに至り、漸く採草地の不足を數ずるに至り、現狀は疎飼料たる藁さへも他村より購入して居る。昨年（昭二一秋）、本村酪農組合割當の飼料用藁は參萬貫、實際入荷一萬五千貫、運賃込單價（駄當）七五圓、他に配給外補給、一頭につき一二〇貫位、單價七五—一八〇圓、又は木炭八貫であつた。生草のない冬季間最低二〇駄を必要とし、配給量は八〇%に達した事になる。他にデントコリンの青刈及甘藷莖葉のインシュレーヂは相當用ひられて居る。（酪農組合員より聽取調査）

(3) 農業藥劑（省略）

(4) 種苗種畜(イ)山羊綿羊(省略)(ロ)甘藷(省略)

(イ) 馬鈴薯種子

最近五ヶ年共に、反當四〇貫を目標に北海道産補給が縣の計畫であつたが實情は、

反當貫	昭八	昭九	昭一〇	昭一一	昭一二
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

計量比% 四六 七三 六〇 七〇 一〇〇

買當單價 〇.三〇 〇.四三 〇.五三 〇.六八 一.〇〇

註 一、採種圃は昭二一(六〇貫)、昭二二(七五貫)を目標とす。

二、昭一八、一九、二〇の單價は筆者の經營簿より昭

二一、二二はC部落農事實行組合の臺帳より何れも運賃込金額である。

昭和二〇年は約十日の遅配だが、大體間に合ふ。昭和二一年は採種圃六六%四月二十六日配給にて半ヶ月遅配(實收二〇%減)、残る三四%は五月二日配給豫告の處辭退して受けず、他は何れも適期播種に間に合ひしも配給量の不足は現在もなほ免れず。

昭二一より本縣の採種圃指定村となり、第一年たる昨年は六〇俵の供出(C部落)を試みたが晩生種の爲めか(例年七月初旬三〇度Cを超えるので未熟收穫となる)、種子遅配によるか、出荷後腐敗霉を出し惡結果を見た。本年は男爵及紅丸を配給栽培したが、六月下旬現在の花盛期に於て約二〇%の萎縮病株(程度強からず)を見、七月初旬の多雨にて疫病急速に蔓延し、男爵は二分作、

紅丸八分作の芳しくない結果を見た。

次に配給外取得量は

調査	取得戸數		取得量		對價(貫)
	今年	昨年	今年	昨年	
C部落	五戸	六戸	五〇	六六	四〇
参考農家	八二	一〇六	三三	九五	七〇

物交は皆無、北海道産は昨年C部落に於て、二戸六貫一三〇圓を見るだけで他は何れも地元産、取得總量はC部落に於て、全使用量の昨年三・七%本年五・四%で言ふに足りぬ微量である。尙最低所要量は反四〇貫で前記計畫對比%表はそのまゝ不足割合の表示となる。希望量としては、六〇—七五貫であるから、現状は三〇%程度充足して居るに過ぎぬ。

(5) 農機具

(1) 一般農具

C部落に於ける配給數と、自由購入數及年間最低必要量とを對比して見る。(最低必要量は別途一〇戸の調査を基にC部落全戸分の算出をなす)

單 價		量 數		子 供		新 服		手 拭		糸		綿 及 糸 除 け	
配 給	配 給 外	計	配 給 外	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓
一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓	一六三圓
一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓
一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓	一〇三圓

註 パンツ及靴下足袋は筆者の手落にて配給外入手数が調査の上に充分表れぬ爲め除外する。

配給品の全入手数への%は表示の數字の如く、尙絲三六%綿〇である。配給品は小物に多く大物に少い故、この割合はもう少し下ることになる。對價は配給品と闇買とで五倍十倍は普通のこと、百倍も珍しくはない。尙物交は皆無である。重點的に觀察するに、その合計數が布地は部落人口數に、作業衣は部落の大人數に殆んど近い。勿論各戸についての偏在は極めて強い。絲の量は人口一人當約四匁位になるが、之は大麻生産地として代用が大いに影響してゐると思ふ、参考農家について見るに又同様である。軍手、ゲートルのやゝ目立つのは山林勞務者用品が多

くを占めるから地下足袋の數亦同意義を持つ。地下足袋について山林勞務者の年間必要量は、伐木夫六、搬出夫十二足と云はれ、幸ひ大麻産地として修理が十分に出来るので現在の品質を以てしてもこの最低必要量で我慢が出来るのである。戰時中食糧不足、勞力不足、鐵不足、と共に、木材増産の最大の隘路たる地下足袋の入手難は、戰後一旦良好になつたが再び憂へられつゝある。不足當り當村の時價を參考迄に記して見る。この價格變動即ち入手難の傾向と見て妥當であると云へまいか。

昭三、二月 同 昭三、三月 同 昭三、四月 同 昭三、五月 同 昭三、六月 同 昭三、七月 同 昭三、八月 同 昭三、九月 同 昭三、十月 同 昭三、十一月 同 昭三、十二月 同

之を要するに、衣料品は品質を問はざる限り入手容易になつては居るが、品質の粗悪（長持ちせぬ）は補給懸念と共に、買溜めの傾向が見られ、價格高は再び入手難を來して、生産阻害の傾向がやゝ見られつゝある。

- (1) 調味料
- (8) 食糧品

満たすに過ぎぬ。(詳細は附録、食糧自給の限界度参照の事)
 先づ食糧の取得数を見る。食糧營團の依託配給機關たる村農業會の配給主任が頻々と更迭して居る爲め、通年配給量を握ることが出来難いので、数字の確實なるC部落に限定して研討を進める。(期間は昭二一、七—昭二二、六の一ケ年間)

	配給總量	同 米 換算	配給外 入手量	同 米 換算
玄米	五、〇〇五・一七	三、三〇八	五、四〇〇	五、四〇〇
精米	一七、三九三・三三	一一、〇六一		
玄大麥	六、〇四九・九	三、三三七	一五、五〇〇	九、〇三三
精麥	二、四〇〇・二二	一、六〇八		
玄小麥	一、六三九・三三	三、六一		
小麥粉	三、三二二・四	三、七四九	一、九〇	四、二二五
稗			一〇	一、二五
馬鈴薯	二、二五五・四〇	一、四三七	九、五	四、八五
甘藷	二、四〇六・三〇	一、五〇四	七、六	五、〇五
甘藷粉	二、三〇〇・三三	一、五七五		
計		三三、〇〇六	七、七三	四、七二二
		七五・三%		二四・七%

(註) 配給外数量即ち闇買数量は今回の調査数の集計である。筆者の知れる範圍でもこの数よりは多いが一應この

まゝとする。

	生産總量	同 米 換算	供出量	同 米 換算
水稻	三八、四	四三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
陸稻	三、六			
大麥	五、二	三、二〇三	四、五二〇	二、九八
小麥	三、〇三	五、七五三	三、八四〇	三、一五
裸麥	二、六	約三、〇〇〇		
雜穀		四、八七	二、〇〇五	三、八三・五〇〇
馬鈴薯	四、八七	六、六六〇	一、九五・〇〇〇	三、〇三三
甘藷	九、六六	三、四・元八		四、〇四
計				

(註) 何れも部落實行組合盜帳數を加工せるもの。供出割當計算の見積基準數であり、實收高とは一致するとは云へぬが一應の参考とする。

	全 量	一人一日 平均
生産量	二二四、二九八	一、七三
供出量	四〇、二四九	〇、三一
差引	一八四、〇四九	一、四二
配給量	二三三、〇六〇	一、八〇
配給外	七六、七二一	〇、五九
計	四九三、八三〇	三、八一
		一〇〇、〇%

以上の數字によつて要約して見ると、配給によつて七

五・三%、闇買によつて二四・七%を入手して居り、假に公表數をそのまま使用して見ると、供出除きの生産量によつて三七・四%、配給によつて四七・二%、闇買によつて一五・四%を入手して居る事となる。これを一人當一日量に平均して見ると配給一合八〇、生産一合四二、計三合二二を正常なる形で入手し、闇買ひによる〇合五九を合せて一日平均三合八一の食糧を消費してゐる計算になる。尙物交は木材杉皮木炭など多少はあるが一割にも及ばない。單價は次表の如く配給と闇とで三倍乃至十五倍の開きがある。

(註) 配給品の單價は疋建なる爲め升建には筆者が換算せり。

米	女大麥	小麥粉	稗	馬鈴薯	甘藷
(一升)	(一升)	(一貫)	(一貫)	(一貫)	(一貫)
二八〇	三三二	七六九	四八〇	四〇〇	四〇〇
配給	五四二	八八四	二四・六二	一	一
配給外	四〇八	二〇六四	六三〇〇	五	一五三
	八〇	八石	石	石	石
	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)
	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)	(又は木石)

次に遅配の程度を見るに昭和十七年秋頃より多少づゝ遅配が始まり、昭和十八年は平均一ヶ月、昭和十九年は

平均二ヶ月以上となり、遂に昭和二十年七月に至つて配を見たが、同年九月食糧疑獄の摘發を見、同年十月までは暫定的な減量配給が行はれたがその程度は今こゝで述べる資料を持たない。昭和二十年の配給は不圓滑の極で一ヶ月分の食糧を十數回足を運んで始めて受配出来ることが多かつた爲め、終戦直前の勞力不足に加重して生産を阻害すること絶大なるものがあつた。終戦後農業會の陣容整備に伴ひ一―二ヶ月の遅配に食ひ止め得ることが出来、尙配給方法の合理化に伴つて受配の爲めの時間浪費も少くなり、昭和二十一年中は殆んど遅配を見ず、一―二件翌月に遅れたものがあつた程度である。但し配給依存の結果所要量の入手の爲めには上記の如く大量の闇買ひを止むなくし、經費と時間の浪費多なるものがある。尙闇行爲の調査に對する懸念の爲め、聴取り結果は充分實數を示すことが出来ないのは遺憾である。

(9) 日 用 品

今回の調査に用ひたものは次の五品目である。

マツ、チ	石	カーブ	クローン	石
(燈火用)	イ	ト	本	鱈
配給 七四・六	二四〇	七三	七六	
配給外 八七・〇	二四〇	九一・七六	八五〇	
單配給 一・一〇	一〇〇	一	〇・五五	
箱 一〇・五	升 三・五	本當り	〇・七五	
配給外 (リ) 三〇	當り 四・〇	一・五〇	五・〇〇	
價	三〇〇	一〇二		

表示の如くこれらの品々は、大體消費量の約半數は配給になつて居る。但しこゝに掲げた昭和二十一年は配給改良した年で前年迄は各品共にこの半數に及ばず、就中無電燈同様な當村としては、燈火用資材の入手は一日の生産活動時間の長短にも關係することゝて、終戦前後には燈油の配給は勿論皆無であり、闇買ひの手段も殆んど絶えて居つた爲めに松の根(ヒデ)を灯す家が多かつた有様である。試みに今回の調査に表れた各戸について見るに闇買の皆無なる家は

部落名	調査戸數	主要食糧	燈火油
A	一八	五	一
B	一六	六	二
C	五四	七	二

D	一九	一三	二
E	一三	三	一
F	一四	〇	〇
計	一三四戸	三四戸	八戸

要するに主要食糧の闇買ひはしなくとも、燈火の闇は我慢出来ぬものらしく、前記の數字を示して居る。(但しこの表を見る上に注意すべきは、C部落以外の参考農家が中以上の耕作規模農家が多い爲めに、全村の傾向を示して居るとは云へぬ點を考慮すべきである。)

無電燈村同様である本村は、無ラヂオ村と云つてもよい(僅か二臺)が、新聞も交通不便の爲め充分間に合はず、二三日遅延することは稀ではない。爲めに文化程度遅れ、復興を阻害すること勿論甚しい。大正十年頃より始められた組合發電による村内電化の事業は、現在僅々八五戸一二五燈に止つて居り、本秋を期して設備擴張全村點火の計畫が着々と進みつゝあるので、生産振興に寄與する日も近きにある。

(附録) 食糧自給の限界度

この小論は當村の文化誌「建設」に郷土の本質を窺

ふ資料の一つとして昭和二十一年十二月筆者が投稿せるものであるが、本調査の主要食糧(8)の項に参考としてこゝに摘録轉載する。摘録であつて自給率とでも云つた方がよくなるが原名のまゝとする。尙論旨は純營養學的な研討であることを一言附言する。

(a) 事實 昭和二十一年推定生産食糧(カロリー)

(第一表)

作物	反收	反當カ	全村	%
水稻	二四・〇 ^町	一・五(玄)	七三・五 ^萬	一・七〇
陸稻	四・〇	一・〇(玄)	四〇	一・七〇
大豆	四・〇	〇・八	三〇	一・二四
小豆	六・〇	〇・五	一九・五	一・〇
稗	一五・〇	〇・七(精)	三九・四	一・四一
粟	五・〇	〇・五(精)	三三・〇	一・〇九
ソバ	一五・〇	〇・三(粉)	八・四	一・一
甘藷	一五・〇	五・〇〇 ^萬	三〇・〇	一・二七
馬鈴薯	一三・〇	三・五	八七・〇	一・三三
小麥	空・〇	一・三(精)	五・三	三・六五
標麥			三・六五	三・五

里芋	一〇・〇	三〇〇	三・八	三・二
玉蜀黍	六・〇	一・五	六四・五	三・七
計	一八三・〇		二・九二	一〇〇

昭和二十一年に於ける數量は第一表の如くである。本表は村の産業統計を基準として、實狀を推定によつて加算せるものである。これによると一人一日二千カロリーとして通年可養人口は、一、五六〇人同じく二千五百カロリーとすれば一、二二五〇人となり、假に村の人口を大約二千人とすれば、二千カロリーで九ヶ月半二千五百カロリーで七ヶ月十九日を賄ひ得る。

これは各々一年の七八% 及六二・五%の期間に相當する。次に蛋白質について同様の基準によつて計算すれば、通年可養人口は一人一日七〇瓦として六五〇人、八〇瓦として五六〇人、村民二千人では七〇瓦で三ヶ月二八日、八〇瓦では三ヶ月一二日、即ち各々三四・二%年及二九・七%年となる。(第二表略)

(b) 考察

(第三表)

昭和二十一年 田 二四町

公簿反別 畑 一六〇町

計 一八四町

内桑畑 二〇町

差引 一六四町

第一表に用ひし主要作物食糧作物計 一八・〇町 一五 一三 一〇

同 昭二一公表数 一六・三 一四 一五 一〇

同 昭一四公表 一四・九 一〇 一〇〇

同 昭四公表 一五・八 一〇〇

前項(a)に於て一應生産數量を平面的に示したのであるが之が妥當性について吟味する。先づ生産量であるがその内反當收量は現狀に鑑みたるもの故推蔽の餘地は殆んどないが、根菜類については未曾有の豊作なる昭二一の實收を基としたので多少は難があらう。作付反別の公表數は、夏期基本調査數へ昭二一春産麥作の作付實態調査數を加算せるものである。筆者の見積り加算數は僅かに八%増に過ぎぬこと第三表に明かである。尙この點については二毛作の關係もあるが一應打切る。以上簡單乍ら第一表の妥當性については首肯し得ると信ずる。たゞ數字は飽迄も純營養學的な理論計算である爲め使用效果とし

ては幾分の減量を見積らねばならない。考察の第二は食糧作物別の内容である。昭二一に於けるそれは前掲の通りであるが、こゝには主要なるものにつき第四表を作製して見た。

熱量生産作物別表(單位億カロリー)

(第四表)

昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
同右%(年度計100%)					
水稻	陸稻	麥	雜穀	大小豆	
一七六〇	・二六	三六〇	・六七	・六一	
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
一七〇〇	・二八	一七六	・六七	・六一	
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
一七三	・三三	二〇八	・三五	・二四	
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・三七	・三〇	一・二三	・三六	・二・五三	
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・三〇	・六五	・三三	・三六	・六八	
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・三〇	・七〇	・一〇	・四五	・五八	
同右%(年度計100%)					
水稻	陸稻	麥	雜穀	大小豆	
一七〇	三・五	五八	二・二		
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・六・七	・五八	九六	・二〇		
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・四・五	・四・五	四八	・一九		
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・三・三	・三七	九八	・三・二	・二七	・二六
昭二一推定	昭一四公表	昭四公表	昭二一推定	昭一四公表	昭四公表
・四・三	・九四	四七	・五・三	・二七	・一〇

昭 四公表 五二 九八 一八 七五 二〇〇

(第五表)

生 産	二千カロ	同上	村民二千
總 熱 量	リ一通年	可養人口	人として
	二、五三	一、五〇	自給率 %
昭二一	二、五三	八、六〇	大〇
昭一四	六、七六	九、六	六八五
昭四	五、六六	七、四	五、七五
			六、七

これによつて最近二十年間の變遷の概貌は窺へるが、

食種別内容から見ても大綱には大きな變化はなく、自然環境の然らしむる處と悟らざるを得ない。第四表に於て比較的目立つのは (イ)米作の比重減少、(ロ)里芋の半減、(ハ)甘藷馬鈴薯の急増、の三點である。米作の減率に陸稻の半減と根菜類の急増による比較減であり、里芋は比較減の上に絶對數も亦著しく減じて居る。

麥、雜穀、玉蜀黍は作付増なるに比較減を示してゐる。最も著しいのは甘藷、馬鈴薯の急増である。戦時中に果したこの二作物の役割は、作付増と栽培技術の躍進と相俟つて増産舞臺の花形役者としてハッキリ表はれて來た。その結果は第五表に見られる如く一町歩當り可養人

口の増加となつて表れて居ると云ひ得る。之を大觀するに昭和初年頃の郷土食たるお正月の芋羹、里芋、田樂等は本村の食種形態を顯著に示してゐたが戦時に入るにつれて之が役割は輕視され、諸薯の二者が大麥、桑園さへも侵略して目覺しき活躍をした譯である。全村營養生産量に於てこの二十年間に約八割の増産とも見られるが、諸薯の兩者は同じ期間に十倍乃至六十倍になり、これが本村食糧の自給に貢獻せる處實に偉大なりと云はねばならぬ。自給率の點より云へば第五表に示す如く、この二十年間に大略四割から六割に進むことが出來たことになる。

(c) 要 約

以上靜態と動態とより考察したのであるが、熱量の純粹計算である爲め前記の如く使用效果としては多少の減量は免れぬ。従つて概括して本村食糧自給の現状は平均數を採つて、年間可養人口一千四百人、村民を二千二百人(昭二二、六末受配人口二、二五五人他に十四戸自給)と見て、七ヶ月二二日即ち六二%年を滿して居るに過ぎぬと云へやう。端的に之を云へば、現在の生産力を以

て現在の人口を養ふには、四割の食糧不足と云はねばならない。然も蛋白質に至つては、農作物だけでは三割自給、今漸増しつゝある酪農生産物を以てするも自給には程遠いのである。従つて村民の經濟生活に於て食用作物以外の換金作物及農業以外の生産物に期待すること如何に大なるかは云ふを用ひない。(以下略)

(本所栃木縣駐在研究員)

三、福岡縣の研究村に於ける農村必需

物資の配給實狀に關する座談會

1 日時 昭和二十二年六月十四日

2 場所 福岡縣指定研究村研究室

3 出席者 (順序不同)

司會者 駐在研究員

小學 校長 Y氏

元農業會職員 K氏

農業 B氏

C氏

村役場職員 A氏

村役場職員 T氏

研究補助員 N氏

農業會技手 H氏

農業 D氏 食糧檢査官補 M氏

E氏

G氏

I氏

J氏

L氏

O氏

森林組合職員 F氏

司會者 只今から農村必需物資配給の實狀とそれについての皆さんの御意見なり、希望其の外その事について日頃お考へになつてゐられる事を遠慮なく御聞かせ戴き度いと思ひます。

又配給だけで足りない品物でどんな種類のものがどれ程不足してゐるか云つた様な事、それを補ふために何んな手段方法をとつておられるかと云つた様なこともお話し願ひます。

農業B氏 農村必需物資配給實態調査表の項目を、順を追ふて進行する様にしたらどうでせうか？

司會者 さうです。結構だと思えます。さうして最後に
締くゝりをする様に致しませう。

それでは先づ第一項の購入肥料のところですが、現在
農業生産に肥料が最も重要な役割を演じてゐますし、
又絶対不可欠の要件となつて居りますが、其の肥料配
給の現状即ち配給肥料の種類數量等についてどなたか
どうぞ――

農業B氏 調査項目として十二項目掲げてありますが、
この中で吾々農民の最も要求するものは肥料特に窒素
肥料です。之を正規のルートに乗せて配給して戴けな
いものでせうかね。

三、二〇〇圓―三、五〇〇圓も出せば硫安もいくらでも
入手出来ます。斯様な品を正規のルートに乗せて配給
して戴き度いと云ふ事は我々農民の心からの願ひで
す。

磷酸、加里と云つたやうな肥料は充分とは云へない迄
も或程度ありますが、窒素肥料の缺乏と云ふ事は農家
にとつて最大の痛手です。

森林組合職員F氏 さうです。私方の様に人數の少い處
では自給肥料と云つても、人糞尿も少いし硫安の配給
といふ事は最も渴望してゐます。

薬工品に對する硫安の特配といふのは不可んですね。
薬細工をする者は大體兼業者が多い。こういふ者に農
業生産に最も重要な役割を演ずる硫安の特配をする
之を闇に流す。その結果農家に對する配給が愈々少く
なると云ふ事になると思ひます。これについては他の
品物或ひは地下足袋等を配給してやれば宜いと思ひま
す。硫安の特配を止めて欲しいと云ふ事を今調査會の
方にも要望して居ります。

司會者 大體此の邊の農家でどれ位の肥料の配給があれ
ば食糧増産に支障を來さないでせうか？

農業B氏 先づ一毛作田で反當五貫目位でせう。

農業D氏 その程度のもの計畫又は三貫目強位配給出
來る様になつてゐるんぢやないですか？ Kさん如何
でせうか？ 配給の割當方法はどうなつてゐるのです
か？

元農業會職員K氏 縣まで來てから各郡に配分する時に三貫目のところもあり之より多い處もあります。各地の土地又は生産及び供出の状況に應じてやつておる様です。

農業D氏 そうでせう。八女郡は一律に反當三貫目強位じゃないでせうか？

司會者 それでは最近硫安の配給を受けられた量はどの位ですか？

農業D氏 馬鈴薯の追肥として五〇〇匁ばかり貰ひました。

元農業會職員K氏 昨年は雜穀を米の代替として供出したのだから、それに對する肥料の配給があつて好いと思ひますが如何でせうか？

司會者 私もそう思つて居ります。それでは麥一俵作るのに必要な量はどの位でせう、此の地方の地方では——

農業D氏 一貫三〇〇匁あつたら好いと思ひます。司會者 まだあると思ひますが窒素肥料については此の位にして次に磷酸加里について、その必要量は——

農業D氏 反當四貫匁位でせう。

農業B氏 里芋の基肥に硫安を入れても過石を混じなければ入れない方が却つていゝと思ひます。硫安と過石を半々に混ぜて使用すれば五、六倍の効果があります。

司會者 それでは加里肥料は不足してゐませんか？

農業D氏 窒素肥料が少いから加里だけがさう多量に必要はないが少いことは少いですね。

農業B氏 さうです。窒素肥料を多く使へばそれに依つて磷酸加里も必要になつてきます。

司會者 その外に何か。

農業L氏 配給の時期が不適當ですね。配給があつてもそれが適期を失したのでは何にもなりません。配給が無ければ高くても闇の肥料を見つける様な事も考へる必要がありますし、計畫の都合もありますので一寸迷ひます。時期を失しない様にして欲しいと云ふ事は農民の切實な要求です。

司會者 それではどうすれば適期に間に合ふか、例へば徑路を簡易化させる。即ち工場と農村を直結させて肥

料の入荷を促進させるとか、其の外お考へになつてゐられる事がありましたらどうぞ。

農業D氏 Kさんは今のルートがどういふ風になつてゐるか分りませんか。

元農業會職員K氏 今のところ主要食糧と同じ様に一應政府が握つて縣に割當てる。それを郡に配分し又郡は町村にと云つた様になつてゐると思ひます。勿論現物は直接に工場から郡に來ると思ひます。

森林組合職員F氏 百姓の仕事特に肥料の問題については一日を争ふ事ですから出來れば司會者の言はれる様に工場と農村といふものを直結出來ればこれに越した事はありませんね。新聞なんかを読むと現物は倉庫に澤山眠つてゐるが指令が來ないので出せんとか、輸送がきかんから思ふ様に出來ないと云つた様な記事を見受けませんがそんな事では困ります。百姓の事も考へて出來るだけ早急に出して戴き度いものです。

司會者 現在肥料配給公園が設立されましたので、運営方法如何では今よりいくらか圓滑に行く様になるかも

知れません。結局はその運営の如何に依ると思ひます
が――

元農業會職員K氏 肥料も食糧と同じで遅配、缺配の形になつて居ります。食糧の方は後で餘裕のつく様になつた時に埋合はせをしてゐる様ですが肥料にもそんな取扱ひは出來ないものでせうか？

司會者 そういふ事が出來ればいゝですね。それに又肥料會社から幾つもの關所を通らんことには百姓の手に渡らない様な現狀では遅くなる許りで、其の上量まで減つて來ます。

工場から農村に直結させると云ふ事は今の處一寸出來ない相談かも知れませんが、之が出來れば理想的ですね。

肥料については此の邊で一應打切りまして、又最後に御伺ひ致します。次に飼料に關しての御意見なり御希望なりを御願ひします。食料の關係で米の精白度も落ちてゐると思ひますので、相當に減少してゐると考へられますが。

森林組合職員F氏 飼料の問題では荷馬車等が一番打撃が大きい様です。

飼料不足のため頼んでも動いて呉れない事が多いですよ。

司會者 そうでせう。荷馬車と云つた様なものも田舎では重要な輸送機關ですからね、之が活潑に動いてくれれば先刻の肥料輸送の問題も幾分解決出来ると思います。

農業O氏 主食の副産物である飼料はどうなつてゐるのですか。

農業J氏 農家から白米を供出させると云ふ様なことは出来ないでせうか？ さうすれば飼料は充分とれると思ひますが。

農業B氏 さあ、白米は貯蔵がきかないですから一寸無理でせう。

司會者 農業會の倉庫單位ぐらいで白米供出をやる様にしては？

一同 そうすればいゝと思ひますね。

司會者 最近飼料の配給を受けられた事がありませんか。
農業B氏 此の間一升ばかり貰ひました。

司會者 その外山羊、綿羊、豚等の飼料について。

農業B氏 これは私方の例ですが人間が二人しかゐないので、自給肥料といつた様なものも人糞尿等當にならないので雞糞文でやつてゐます。これも飼料の少い時は芋甘藷等をやつてゐますが、こんな時の鶏糞はあまり効かない様ですな。

司會者 それでは農業藥劑について。

森林組合F氏 農業藥劑は一律な配給でなしに農業會に現物を保管しておいて、要る時だけ必要量の配給を受け技術員の指導で之を使用する様にすれば好いと思ひます。

農業B氏 そうです。私もFさんの意見に賛成です。そうでないとならないものでも平等に配給を受け使はないところはその儘放つてしまつてゐるし、要るところでは足りないところも出来ると云つた様な矛盾が出来ますから。

可會者　そうですね、それでは配給を受けられた量につ
つ。

農業D氏　今は少いが以前は多かつたですね。

森林組合F氏　昔は薬品は倉庫に保管しておいて技術員
の人が村を巡廻し、害虫の發生に氣付いたり、その外
薬劑撒布の必要を認めたら農家にそれを忠告して薬品
をとり來させ、使用法等も指導するといった様なや
り方をしてゐましたが、あれは好いですね。

農業I氏　害虫が發生してから薬品を揃へる様な今の状
態では絶対に間に合いません。大體年間を通じて發生
する害虫は決つて居りますから、農業會で前以て必要
と思はれる様なものを手配準備して置く事ですね。

司會者　薬劑で最も要求率の高いものは何でせう。

農業D氏　それは「ゲラン」でせう。これさへあれば助
ります。

農業B氏　「ゲラン」の事ですが先日一袋一四〇圓で買ひ
ましたら大變良いものでしたが——効果が無いですよ
十分ノ一も——笑聲。

元農業會職員K氏　除蟲菊やゲラン等を小粉化したため
に價格もあがり、効果は逆に少くなつたと思ひます。

司會者　其の他要求は、ボルドー液、石灰硫黄合劑、砒
酸鉛等ですか？

一同　そうです。

農業J氏　之も遅くて間に合はず、折角來ても使用出來
ないものもあるから早くお願ひ致します。

司會者　新しい名前の製品で特に効果のあつたと思は
れるものは。

農業E氏　私は除蟲菊エキスを苗代の「アブラ蟲」驅除
に使ひましたが非常に効果がありません。

司會者　そうですか、大變いゝ實驗をおやりになりまし
たね。それでは種牛、羊其他苗木種子物等でお困りの
點について一つ。

農業O氏　山羊等の飼育の希望は相當あると思ひます
ね。榮養不足の折ですから。

農業B氏　そうです皆んなが希望してゐると思ひます。
只問題は仔山羊の入手が困難だから飼ふにも飼はれな

いといふのが實情ですね。

司會者 それは午前中に一寸説明致しました日本山羊協會で出来る丈斡旋して呉れる様な話です。

農業O氏 關心は深く、飼育希望者も大分ある様ですが、ら纏めて申込んで戴けないでせうか？

司會者 そうですね、さういふ風に致し度いと考へます。

その他、苗木、種子物に對する御希望は御座りませんか？

農業B氏 三、四年前までは農業會に種子物の原種が來て之を蒔いて呉れと云つた様にして配布を受けて居りましたが、あれは非常に良い事だつたと思ひます。

私は其の時貰つた裸麥の「三井神力」を今でも作つてゐますが、成績が逆も良い様です。近所の人にも頒けてやつてゐますがとても喜ばれてゐます。

司會者 農林省農事試験場の九州支場では、その土地に適した種子を親切に斡旋してくれる様ですから大いに利用されると良いと思ひます。

森林組合職員F氏 戦前の制度や、やり方でいゝと思は

れることは此際復活させて貰ひたいものですね。

司會者 同感です。そんな事も農村の方から意見が出ないと責任者の方でも判らない譯ですから、積極的にお願いせ願へれば結構です。

次に農具について——價格の暴騰等で仲々入手困難なことを思ひますが、之について一つ。

森林組合職員F氏 配給品は粗悪で使用に堪へない様なものが多いので結局高價であるが野鍛冶に依存すると云ふ事になりますね。

農業J氏 そうです、それも今では配給さへもありません。

農業L氏 配給農器具の缺點は品質の粗悪もありませんが、山間部と平坦部では使用する器具の構造も違ふので、配給品では此の邊で一寸使ひ難ひと云つたものが多いですね。

農業J氏 村にある野鍛冶を農業會の指定工場にして安い價格で造つて貰ふ。その代りに農業會としては鍛冶屋の生活を保障してやると云つた様なことをすれば大

變いゝと思ひますかね。

司會者 そうです、ね、器具の構造が違ふから、其の村にある野鍛冶が一番いゝ。然し問題は大量生産が出来ないから高價になる。特に此の頃では恩に被せられるし、又頼んでも直ぐには造つてくれないと云ふ傾向がある。之をやがて生れ出る協同組合がとり上げて善處すべきだと思ひます。農器具については此の邊で。次は自轉車、リヤカー、タイヤ、チューブ等について。

農業B氏 皆欲しいものばかりですね。これも百姓の鋏、鎌等と同様に生活必需品ですよ。特に私方の様に一寸役場まで出て行くに二里も三里もあるところでは唯一の交通機關ですから。こんなのが潤澤に出廻れば非常に助ります。

農業L氏 タイヤなんか配給品としては殆んど無いので目玉がとび出る様な高い闇の品を買ふことになりません。

森林組合職員F氏 闇のものも會社なり工場で工員に格外品を拂下げたのが流れて來るんだからいゝやつは無

い様ですよ。十日も乗廻せば使へなくなる様ですから。研究補助員C氏 再生品が多い様ですね、破れたところを見ると中の方は古タイヤが出てきます。

司會者 時間がありませんのでまだいろ／＼あるでせうが次に進みます。では衣料品について。

農業B氏 肥料に次いで欲しいものは衣料品ですね。然し之がまた出鱈目に高いので一寸手が出ません。特に作業服が欲しいですね。

小學校長Y氏 男の方は軍服の拂ひ下げがあつたから未だ良いとして女の方はどうでせうかね。

都市の郊外あたりでは主食の交換等で相當に入つてゐるらしいが、この邊りは何うですか？

農業B氏 この邊にも入つてきます、然し高いですね。

主食との交換は百姓自身困難だから無論出来ない。

司會者 闇價格の程度は？

農業B氏 地下足袋が諸百匁五圓として五貫目と言つて

おましたので二五〇圓から三〇〇圓程度でせう。

農業J氏 私のところでは一貫目百圓として四貫といつ

てみましたので四百圓になります。

農業B氏 布地の上等が尺百圓から百二〇圓、悪いやつで四〇圓はします。

司會者 特に不足してゐる品物は――

農業J氏 作業服、地下足袋ですね。

農業B氏 縫糸、綿類も足りません。

司會者 では食糧について、特に味噌、醤油、嗜好品等はどうですか。

農業B氏 全部欲しい必需品であります、今のところ之だけは要求しても無理ぢやないでせうか？

司會者 いや、腹藏なく聞かせて戴き度ひと思ひます。

元農業會職員K氏 昨年の麥供出量が過大だったため味噌、醤油が殆んど自家製造出來ずに弱つてゐます。

農業B氏 之も鹽の配給があれば豆等はあるから解決出來ると思ひますが。それからドウ酒をつくることは供出完了後、特に昨年度の様に一〇%完遂した後は飯は喰はんでもいゝから酒が欲しいと云つた様な者は許可してもいゝと思ひますが。

司會者 それも一案でせう、外にどなたか。

農業O氏 酒、醤油、味噌等の末端配給狀況の實態を調査して貰ひ度ひものです。水の中に酒、醤油を混ぜた様なのがあります。

一同 同感です。

司會者 それでは次の燈油、木炭の配給について。

農業O氏 燈油は今の様に電燈がつかない時は農家も是非必要ですね。

森林組合職員F氏 木炭は自動車所有者でも自營製炭の許可は出來ないものでせうか？ 外のところではこれがあつてどん／＼作つてゐますが――。私の方の森林組合はそれが無いので困ります。それから生産價格と最終販賣價格の差が餘りにも開きすぎます。之は是非是正して貰ひ度ひ事です。

農業B氏 そうです。それと共に木炭と薪の開きが少ないことです。こんな事では來年あたり木炭の生産はガタ落ちしますよ。

農業E氏 それから器具類にさす油が是非欲しいと思ひ

ます。今迄は食用油の中から無理をして使つてゐる様な現状です。

司會者 次に鍋、釜類の配給はどうですか？

村役場職員丁氏 鍋、釜等は引揚者等の救済用又は應急用として廻してゐます。所謂優先配給となつてゐますから一般家庭には一寸出廻らないと思ひます。

農業B氏 そうでせう。又さうする事が本當でせう。

司會者 では醫療品について。

農業B氏 之も藥劑と同じく一度に配給しないで農業會あたりで保管して必要に應じて買へる様にすればいいと思ひます。

司會者 醫療施設についての希望は――

農業B氏 田代の様に遠隔の地ではその必要を痛感させられます。本村の様に人家の分散してゐるところでは一人の醫師では足りませんね。

司會者 そうですね。醫師の適正配置と云ふ事は農村衛生といふ見地から極めて重要な問題ですね。それでの問題は、診療に従事して貰ひ乍ら、名古屋醫大の中

島副手と一緒に調査をやる事にしてゐます。

司會者 現在、新聞、雜誌類で配給のあつてゐるのは

「農業新聞」と「家の光」だけですか？

農業B氏 そうです。これはこの問題と別になります。農村には一體に娯樂機關がありません。慰安設備が少いから移動演劇隊等の巡廻慰安を希望致します。

司會者 そうですね。この事については私も眞剣に考へ

てゐます。私の關係してゐます本村の青年團は縣農業會の發意でつくられた農山漁村文化聯盟に加入致しま

して、今度田植がすんだら映寫會をやる様になつてゐます。

それからこの問題は肥料のところ御訊ねするのが本當だつたと思ひますが「年間取得數量の取得方法別概數」と云ふ項目についてお願ひ致します。

先づ物資の入つてくる方法、徑路は――

農業B氏 ブローカーを通じて入つてきます。そのため手数料が非常に高くなつてゐます。

農業丁氏 一概には言へませんが都市の近郊の人、又は

工場等に知り合ひの多いと云つた様な人からは入つて來ます。

司會者 交換條件は物交かそれとも現金支拂ひですか？

農業B氏 以前は物交が多かつた様ですが、この頃では現金が多い様ですね。

農業J氏 工場で工員等に給料が安いから、その代りに現物給與として肥料をやつて主食と交換させる様にしている様です。

それが厩肥料としてプロカーの手を通じて流れて來てゐると思ひます。

司會者 厩肥料の入手出来る農家と云ふものは限られてゐますか？

農業B氏 みんなが欲しがつてゐます。ありさへすれば少々高くても買ひ度いと云つた様な者ばかりです。然し買ひ途を知らんですね。それで結局世渡り上手の利口者が手に入れる譯です。

農業O氏 高くてもいゝから誰でも手に入る様にして欲しいものです。正直者が馬鹿を見る様なやり方は改め

て欲しいものです。

森林組合職員F氏 同感です。

司會者 御忙しいところを長時間いろ／＼有難う御座りました。皆さんの要望中質すべき處は質し充分研究の上お互ひが納得のいく様に努力致し度いと思ひます。長時間にわたりいろ／＼と有難う御座りました。

(司會者本所福岡縣駐在研究員)

(編輯委員註)

この座談會の記録は雜誌の原稿として豫定して書かれたものではなく、當研究所の内輪の暫定報告として堤研究員から寄せられたものであつて、他に各種の資料を具して系統づけられた報告書が追つかけて到着する豫定である。従つて若しかすればその正式報告書と若干重複する部分が生ずるかも知れぬが、村に於て生きた現實の中にもまれ乍ら、耕す農民や村の當事者と膝を交へて、心安く語り合ひ乍ら、當面の危機の突破口を探し、今後の農村の在り方を考へるといふ意味で貴重な記録だと思ふので、前掲の岸、福田兩研究員の報告と併せ掲載する譯である。

(備考)

農村必需物資配給實態調査に関する件

農業綜合研究所(二二、五、一一)

一、趣 旨

左の品目につき農村配給の實態を把握し、供出並に生産に及ぼす影響の研究に資する。

二、調査品目

- 1 購入肥料
 - 2 種苗種畜
 - 3 農業藥劑
 - 4 購入飼料
 - 5 農機具石油發動機（修繕用部品の購入等を含む）
 - 6 自轉車
 - 7 衣料類（布、糸、作業衣、地下足袋、中入綿等）
 - 8 食料嗜好品類（主食を含まず、味噌、醬油、鹽、砂糖、酒、煙草等）
 - 9 樽寸、木炭
 - 10 鍋、釜、辨當箱
 - 11 醫藥品
 - 12 新聞、雜誌、教科書、ノート
- ### 三、調査事項
- 1 配給計畫（豫定）數量と配給実績數量
 - 2 年間取得數量の取得方法別概數
 - 3 最低所要數量（現在迄の生産維持に必要な數量）と希望數量（現在の生産を可能なる程度に迄擴張するに必要な數量）

4 取得方法別品目の對價

四、調査方法

- 1 戸數百戸内外で耕作戸數の多い部落を對象とし、可及的其全數を押へること。
- 2 部落全戸について把握すること困難なる事項（例三、の3の如き）については地主、自作、自小作、小作、被傭人等の大小規模の代表的數戸につき綿密な調査を遂げること。
- 3 村役場、農業會等の公表に就いては適切な検討を加へること。
- 4 調査上の機密を嚴守し個人又は機關に迷惑を及ぼさざる様萬全の注意を拂ふこと（例へば農家の氏名、機關の名稱等は頭初より番號又は符牒等を以て扱ふ如き）。